

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0370200305
法人名	医療法人 孝仁会
事業所名	グループホーム すまいる
所在地	岩手県宮古市大字崎鍬ヶ崎第9地割字大石39番地34 (電話) 0193-64-3100

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3-19-1		
訪問調査日	平成19年12月7日	評価確定日	1月29日

## 【情報提供票より】(19年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤	人, 常勤換算 7 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,200 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

### (4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	3名	要介護2	1名
要介護3	4名	要介護4	1名
要介護5	-名	要支援2	-名
年齢	平均 86.8歳	最低 83歳	最高 92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩手県立宮古病院、伊藤歯科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

眼下に太平洋を望む風光明媚な静かな環境にあるグループホームである。日当たりの良いテラスでプランターにきれいな花を咲かせ、その傍らの椅子で日向ぼっこをしながらゆったりと過ごしている。地域の方から大根をいただき、大根を抜き洗って干すという一連の作業からたくわん漬け等も行ったりしている。頂いた蒔や枝豆を自分たちで料理をしながら、季節感を楽しみ生活を豊かに過ごされている。月に1回は、誕生会や外食に家族の方も参加して出かけている。訪問看護による健康管理も行われ皆さんが安心して暮らされているホームとなっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善点が多く、少しでも良くしなければとの危機感を持ちながら取り組んできた。認知症やセンター方式、内服薬、身体拘束等についての勉強会により職員の啓発を行い連携に努めているほか、ケアプランの内容をより利用者に沿ったものとするため家族を含めた関係作りにも努力してきている。預かり金の取り扱い方法や感染症マニュアルの整備も行った。地域交流も行われ、野菜をいただいたりホームの豊かな生活に繋げている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、管理者と計画作成担当者の2人で検討してまとめた。家族との関係づくり、センター方式によるケアプラン作成、緊急時の支援体制、重度化や終末期に向けた方針、ケアの質の向上等の課題が明らかになっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議においては行事報告、地域との関わり特に夜間災害時の避難体制について、家族からの意見要望について話し合われている。利用者も2名位参加してホームで行われている。この会議の開催により家族との関係が友好的になり、グループホームへの理解が深まっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>11月のミニ運動会後に家族会を行った。家族の来所時にケアプラン説明と一緒に普段の様子をお知らせしたりしながら、意見をうかがうようにしている。毎月1回、利用者の様子を写真とコメントでお知らせしている。家族アンケートを実施して要望や苦情の吸い上げを行っており、結果の集約等について検討中である。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>3ヶ月に1回広報を発行し近所に配布している。町内会に入り、回覧板をまわしたりしている。今後、町内会の会議や行事にも参加していきたいとも考えている。散歩の途中、地域の方と挨拶を交わしたり、中学生の研修やボランティアの受け入れも行っている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念としてホーム内に掲げられているが、職員に浸透していないようである。	<input type="radio"/>	職員も大分替わってきているので、地域の中でという視点を盛り込みながらポイントを絞った簡潔な理念についての再検討が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング等で何が大切かを確認しながら取り組んでいるが、理念との関わりが薄いように感じられる。	<input type="radio"/>	理念をどうするかの話し合いの過程を大切に、理念の共有を図ることが求められる。日々のケアの原点となる理念であるので、その作成の過程を記録し、職員が替わってもしっかりと認知されるように定期的な確認の機会を持つことが望まれる。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	3ヶ月に1回広報を発行し、近所に配布している。町内会に入って回覧板をまわしたりもしている。地域の方から大根をいただいて、“たくわん”作りをした。徐々に地域の方とのつながりができつつある。	<input type="radio"/>	町内会の会議や行事に参加したり、今年度培ってきたつながりを更に深く広くしていきたいと考えている。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は管理者と計画作成者で行った。	<input type="radio"/>	評価の中で明らかになったことを職員全員で検討し、同じ目線で具体的な改善に取り組むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回利用者も交えて行われている。行事の報告や災害時の対策などについて家族から意見が出されるなど、貴重な意見交換の場になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービス事業所管理者会議では、サービスについての概要説明を受けている。運営推進会議にも市役所から参加・助言を頂いている。	○	運営推進会議録を職員が直接市役所の窓口に届けながら情報交換をするなど、ホームから出向いての顔の見える連携が期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話等で健康状態や預かり金の金銭報告を行っている。また、行事写真や普段の様子を記入したお知らせを毎月発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、意見等を話し易い雰囲気づくりを心がけている。要望や苦情の吸い上げのために家族アンケートを実施している。	○	家族アンケートや運営推進会議で出された意見や要望をいかに運営に反映させていくかの会議を12月に予定している。その成果に期待したいと思う。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の定期異動や、新しいグループホーム開設の関係、職員個人の理由により職員の異動等が多くなっている。同じ様なケアが継続できるように申し送りを行ったり、対応の仕方を徹底するようにしてきた。	○	サービスの質の確保の核心の1つは利用者とのなじみの関係づくりにある。利用者が安心して暮らすことが出来るように職員の異動は、最小限のものとするよう法人の理解を求めていくことも必要と思われる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム勤務が初めての職員を実務交換研修に参加させたり、研修計画に基づき身体拘束やリスクマネジメント等について勉強会を行い職員の質の向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームで交換研修を行ったり、管内や県のグループホーム研修会に参加し意見・情報の交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面談を数回行ったり、併設の老人保健施設からの利用者については見学に来てもらって馴染みの関係を作ってから入所に心がけている。入所してから帰りたいという利用者については、時間をかけて家族の協力を得ながら本人に納得してもらうことが出来るように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	たくわん作りや荒巻鮭づくりの仕方を教わったり、松あかしなどの習慣を聞いたり、新聞の話題を取り上げたりしながら三世同居の家族のように学び支えあう関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での職員の気付きを元に、カンファレンスで検討し本人の意向確認に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当を決めており、担当の報告を元にチームとして話し合い、本人や家族の意見等聞きながら介護計画を作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画についてはケアカンファレンスで検討を行っている。家族との信頼関係作りに努力しており、細かなやり取りにより、本人に即した計画が作られるようになってきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方からの家族の宿泊や利用者の外泊、外出に小まめに対応している。受診介助も事業所の車を使って行っている。		墓参りの希望者があれば今後付き添いたいと考えている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で、全員の方がかかりつけ医に受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を作成し利用者に同意を得ている反面、医療面や入浴で困難になった時は住み替えを検討するなど、家族は病院、もしくは特養への希望が多い。	○	看取りの指針を日々のケアにいかについで具現化していくか、グループホームとしてどこまでやれるのか、必要な準備は何か、家族の意向は何か、等その都度話し合っていく事が求められている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は書庫に保管し、記録は見えないところで行うようにしている。裸を恥ずかしがる利用者には脱衣室で他の人と会わないように配慮したり、外出の付き添い職員の服装を私服に近いものとしたりと細やかな配慮が為されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活パターンの把握を行っている。一応、日課にそった声かけは行うが、本人のペースを尊重した対応を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は、旬のものや頂き物、利用者の好みなどを考慮して当番の職員が考えている。食材を無駄にしないように工夫がなされ、調理法や味見など利用者に関わったり手伝ってもらったりしながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日を基本とし、拒否のある方にはタイミング良い声かけなど工夫して行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台所仕事、ゴミ捨て等の力仕事、歌唱指導などそれぞれの得意分野が役割として分担されている。散歩の時に摘んできた花を押し花とし、法人内の老人保健施設の文化祭に作品として出品している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近くの公園まで散歩に出かけたり、新聞のチラシを見ながら食材の買い物に行っている。毎月、家族の参加を得ながらのドライブや外食は、利用者の楽しみな行事となっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関入り口にセンサーがあり、外に出るとブザーが鳴る仕組みとなっている。また、玄関のドアは自動ドアの電源を切り、手動ドアとして使用している。20時から9時までは施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練や初期消火訓練を消防署立会いのもと行っている。地域への応援要請サイレンを設置している。緊急時の備品としては水と救急箱が準備されている。	○	運営推進会議の中で、夜間災害時の避難体制の課題が出されている。隣接している老人保健施設に依存せず、独自に備品を確保したり、地域の方や地元消防団の参加を得て避難訓練を行うなど、実際に動きやすい体制作りに向けた努力が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限のある利用者はいない。法人内の管理栄養士に栄養バランスチェックを受け、助言を貰っており、水分・栄養チェックをもとにカンファレンスで検討し、個別に声がけや補食での対応を行っている。		
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が広々としており、天窓からの採光も工夫がなされている。畳スペースにこたつが準備されたり、ソファーに、椅子にと、それぞれお気に入りの場所で過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全員の方がグループホームで準備したベッドを使用している。私物の持込はあまり多くはないように感じられる。家族が希望すれば予備のベッドを持ち込んで泊まることができるスペースが確保されている。壁にはそれぞれの利用者の作品や写真が飾られている。		